

慢性腎臓病 (CKD) に対するダパグリフロジン 10mg 投与の臨床的検討

なが み はる ひこ 1) た ばら ひで き 1) せ しも たつ ゆき 1)
長 見 晴 彦 1) 田 原 英 樹 1) 瀬 下 達 之 1)
さ とう ひろし 1) あら がき まさ とし 1) ひろ せ まさ ひろ 1)
佐 藤 博 1) 新 垣 昌 利 1) 廣 瀬 昌 博 1)
お ぐろ ひろ あき 2)
小 黒 浩 明 2)

キーワード：SGLT2 阻害薬 (ダパグリフロジン：Dap 10mg)，
2 型糖尿病性・非糖尿病性腎臓病， Δ e-GFR

要 旨

SGLT2 阻害薬は Na-glucose 共輸送体である SGLT2 を阻害することにより尿中に糖排泄する血糖降下薬である。近年 DAPA-CKD 試験¹⁾の結果をうけダパグリフロジン10mg (Dap10mg)が糖尿病性・非糖尿病性 CKD 治療薬として脚光を浴びている。さらにエンパグリフロジンを使用した EMPA-KIDNEY 試験²⁾においても同様に非糖尿病 CKD 患者に対する腎保護効果が示された。今回、我々は糖尿病性、非糖尿病性 CKD 患者に対して Dap10mg を投与しその腎機能に対する効果、有害事象について検討した。

対象症例は糖尿病性 CKD17例、非糖尿病性 CKD14例でありいずれも e-GFR \geq 25 ml/min/1.73m² の症例を対象とした。Dap10mg 投与後から投与後24ヶ月までの期間において経時的に血中 Crea 値、e-GFR 値を求め、 Δ e-GFR (投与前、投与後24ヶ月までの e-GFR 値の変化量)を測定した。結果は糖尿病性、非糖尿病性の平均 Δ e-GFR はそれぞれ -3.78, +1.36であった。また投与期間中の有害事象は頻尿、尿路感染を比較的多く認めたが、体重減少も一定頻度認めた。一方脳・心血管障害などの有害事象は全く認めなかった。糖尿病性・非糖尿病性 CKD に対する Dap10mg 投与は今回の24ヶ月の観察において腎機能の悪化速度を軽減させたのみならず、一方で改善症例も一部存在しており今後の CKD 治療に一石を投じる薬物であると推測された。

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 出雲徳洲会病院総合診療科

2) 同 神経内科

連絡先：〒699-0631 島根県出雲市斐川町直江3964-1

出雲徳洲会病院 総合診療科

はじめに

2 型糖尿病患者に対してエンパグリフロジンを投与した EMPAREG-OUTCOME 試験³⁾では